

岡山大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和 3年6月24日(木) 本部棟3階 入札室	
委員	委員 阿藤 俊二 (学校事務部長) 委員 板野 次郎 (弁護士) 委員 小橋 仙敬 (公認会計士)	
審議対象期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
抽出案件(合計)	8件	<p>(備考)</p> <p>退任の山崎委員に代わり、新たに委員に就任した阿藤委員の紹介があった。入札監視委員会設置要項に則り、互選により小橋委員が委員長に選出された。</p> <p>今回の審議対象期間においては、再苦情の申し立て及び同審議依頼はなし。</p>
建設工事(小計)	5件	
一般競争入札(WTO)	1件	
一般競争入札(上記以外)	2件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	2件	
設計・コンサルティング業務(小計)	3件	
公募型プロポーザル	0件	
簡易公募型プロポーザル	1件	
標準プロポーザル	0件	
競争入札	1件	
随意契約	1件	
委員からの意見・質問, それに対する回答等	意見・質問	
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	一者入札となった場合の辞退理由について確認・分析しておくことが望ましい。	

別 紙

意見・質問	回 答
<p>1. 岡山大学において発注した建設工事について [資料1] [資料2]</p> <p>特になし</p> <p>2. 岡山大学において発注した設計・コンサルタント業務について [資料3] [資料4]</p> <p>特になし</p> <p>3. 審議対象工事等に関する点検事項について [資料5] [資料6]</p> <p>点検事項①の一者応札について、辞退理由の確認を行っているか。</p> <p>点検事項④の入札参加者に対して低入札業者の割合が80%以上の事業について、積算書の検証を行っているか。</p> <p>内容や形式が類似している積算書がないか確認を行っているか。また、問題があると判断した場合、当委員会での審議となるか。</p> <p>4. 審議対象工事等（抽出案件）について [資料7]</p> <p>審議対象とした工事等に限らず、実施方針や評価項目の設定根拠を説明してほしい。</p>	<p>辞退理由の確認は行っているが、資料として集積はしていない。</p> <p>本学が提示している数量書と比較し、積算の項目が異なっていないか、数量や単価について目立った差異ないかを確認している。</p> <p>談合防止の観点から、他入札者の様式を使用していないか、類似部分がないかを確認している。問題があると判断された場合、審議は当委員会ではなく、公正入札調査委員会にて行い、結果については当委員会で報告することになる。</p> <p>〈参考資料〉にあるように、国から実施方針が示され、それに基づいて国立大学法人岡山大学建設工事総合評価審査委員会にて評価項目、評価基準を規定している。</p>

<p>資料 7-2 において、応札価格の開きが大きいのが、理由は確認しているか。</p>	<p>外壁改修工事では、予定価格には下請け費を計上しているが、落札業者は下請け業者への委託が少なく、自社にて主な施工が可能であり、下請金額の圧縮により安価での入札を行うことができたことを確認している。</p>
<p>ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する認定状況はどのように確認しているか。</p>	<p>競争参加資格認定申請書にて、根拠となる日程書類等の提出を求めている。</p>
<p>資料 7-3 において、当初 4 者から申請があったにも関わらず、3 者が辞退している理由は確認しているか。</p>	<p>当該工事はⅡ期工事であり、Ⅰ期の工事を当該落札業者が施工している。参加者が工事の詳細を確認し、接続など責任分界点が難しく、施工がしづらいと判断して他者が辞退したものと考えている。</p>
<p>資料 7-4 において、1 者応札となっているが、参加を見込んだ業者数は何者だったのか、また、内容が特殊な工事ではないか。</p>	<p>5 者程度を見込んでいた。工事内容は屋外給水管の更新であり、特殊な工事ではない。 〈参考資料〉の施設企画部で作成している「入札公告（案）の条件設定等について」に基づき、等級区分の緩和を行い、多くの競争参加が参加できるようにした。</p>
<p>資料 7-5 において、低額な応札金額となった根拠を検証しているか。</p>	<p>〈参考資料〉の内訳比較表のとおり、各応札者の積算価格の比較をおこなった。材工共での単価だったため、材料費か労務費かどこで差があったかは不明だが、共通費が安価であったため、企業努力により、安価な応札価格になったと考えている。</p>
<p>資料 7-6 において、落札率が 67.2 %と低額な応札金額となった根拠を検証しているか。</p>	<p>当該工事は土木工事の側面が強く、自社にてトラック等の器材調達が可能なことにより、安価での施工が可能であったと考えている。</p>
<p>資料 7-7 において、落札率が 99.07 %と高くなった理由は検証しているか。</p>	<p>簡易公募型プロポーザル方式では、〈参考資料〉技術提案書評価表での評価点が最高となった一者と見積合わせを行う。本事業においては当初の入札金額が折り合わず、複数回の入札を行ったことから、落札率が高くなったと考えている。</p>

5. 令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）指名停止について  
[資料8]

特になし

6. その他

特になし